2026 年 11 月 13 日

お客様各位

株式会社ミロク情報サービス

SQL Server セキュリティ更新プログラム適用のお願い

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、マイクロソフト社より 2026 年 11 月 10 日（米国時間）に、SQL Server の脆弱性を修正するセキュリティ更新プログラムが公開されました。この脆弱性を放置すると、外部から不正にパソコンを操作されるおそれがあります。

MJS マイナンバー（オンプレミス版）をお使いのお客様は、SQL Server のバージョン（ビルド番号）をご確認のうえ、更新プログラムの適用をお願いいたします。特に MJS マイナンバーはマイナンバー（特定個人情報）を保存しているため、お早めの適用をお願いいたします。

敬具

記

１．対象製品について

下記の製品で使用している SQL Server が対象です。各製品の再インストールやバージョンアップは不要です。

製品名	作業するサーバー・パソコン
MJS マイナンバー（オンプレミス版）	SQL Server が導入されているサーバー（1 台でお使いの場合はそのパソコン）

２．作業前のご確認

- 更新中は SQL Server が停止し、製品が使えなくなります。また、パソコンの再起動が必要になる場合があります。業務時間外に作業してください。
- Windows の管理者権限を持つユーザーで作業してください。
- 作業の前に、データのバックアップを取得してください。
- MJS マイナンバーを終了してから作業してください。クライアント/サーバー環境の場合は、すべてのクライアントで終了してください。

３．更新済みのビルド番号について

「４．ビルド番号の確認手順」で表示された番号を、下表で確認してください。番号の形（先頭の数字と、3 つ目の数字の最初の 1 文字。例：15.0.2000.5 → 15.0.2xxx）が同じ行で比べます。

表示された番号の形	更新済みのビルド番号（適用する更新プログラム） ※この番号以上なら適用済み
●SQL Server 2017	
14.0.1xxx／14.0.2xxx（GDR）	14.0.2150.2（KB5132749）
14.0.3xxx（CU）	14.0.3570.2（KB5132746）
●SQL Server 2019	
15.0.2xxx（GDR）	15.0.2210.4（KB5132751）
15.0.4xxx（CU）	15.0.4510.2（KB5132745）
●SQL Server 2022	
16.0.1xxx（GDR）	16.0.1220.3（KB5132747）
16.0.4xxx（CU）	16.0.4315.2（KB5129300）
●SQL Server 2025	
17.0.1xxx（GDR）	17.0.1155.3（KB5132748）
17.0.5xxx（CU）	17.0.5045.3（KB5129299）
●SQL Server 2016 以前	
13.0 以下	更新プログラムの提供なし（「７．補足」参照）

・表示された番号が「更新済みのビルド番号」以上の場合は、適用済みです。以降の作業は不要です。

・「更新済みのビルド番号」より小さい場合は、「５．更新プログラムの適用手順」に進んでください。

（例）15.0.2000.5 と表示された場合は、「15.0.2xxx（GDR）」の行で、15.0.2210.4 より小さいため、KB5132751 の適用が必要です。MJS マイナンバーを導入したままの状態では、この番号になっていることが多くあります。

【注意】番号の形が違う行どうし（例：15.0.2xxx と 15.0.4xxx）は比べないでください。

４．ビルド番号の確認手順

① SQL Server が導入されているパソコン（サーバー）に、管理者権限を持つユーザーでサインインします。

※以降の手順は、SQL Server 2019 を例に記載します。

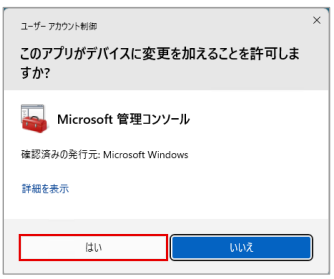
② スタートメニューで「SQL Server」と入力し、「SQL Server 2019 構成マネージャー」（数字はお使いの SQL Server のバージョン）の［管理者として実行］をクリックします。

検索結果に表示されない場合は、検索欄にお使いのバージョンに合わせて次のとおり入力して起動します。

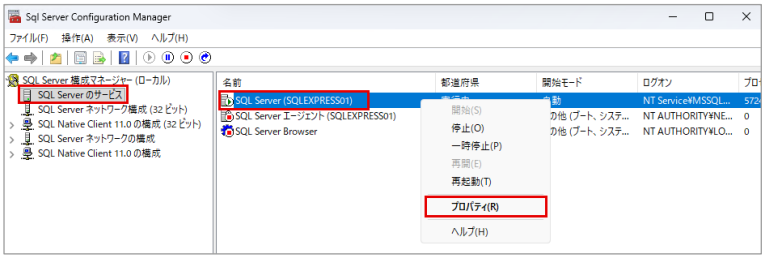
SQL Server 2017：SQLServerManager14.msc
SQL Server 2019：SQLServerManager15.msc
SQL Server 2022：SQLServerManager16.msc
SQL Server 2025：SQLServerManager17.msc

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」と表示されたら、［はい］をクリックします。



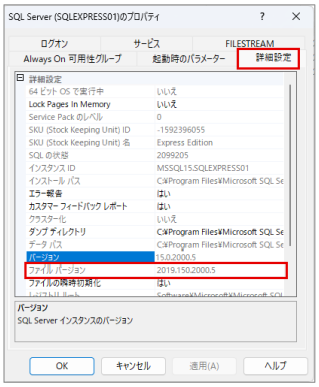


③ 左側の［SQL Server のサービス］をクリックし、右側に表示される「SQL Server (XXXX)」を右クリック→［プロパティ］をクリックします。XXXX の部分はインスタンス名です。MJS マイナンバーの場合は「MJSMYNDBSV」です。



④ ［詳細設定］タブの「ファイル バージョン」に「2019.150.2000.5」のような番号が表示されます。先頭の「2019.150」の部分を「15.0」と読み替えて（例：2019.150.2000.5 → 15.0.2000.5）、「３．更新済みのビルド番号について」の表と見比べます。

※必ず「ファイル バージョン」で確認してください。すぐ上の「バージョン」は、更新プログラムを適用しても変わりません。読み替えは、2017 は「2017.140」→「14.0」、2022 は「2022.160」→「16.0」、2025 は「2025.170」→「17.0」です。

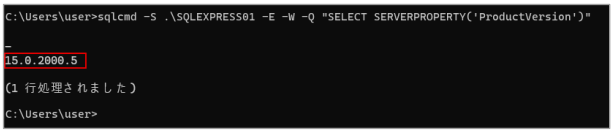


【SQL Server 構成マネージャーで確認できない場合】

コマンド プロンプトを起動し、以下のコマンドを入力（コピーして貼り付け）して Enter キーを押します。

MJS マイナンバーの場合

```
sqlcmd -S .¥MJSMYNDBSV -E -W -Q "SELECT SERVERPROPERTY('ProductVersion')"
```



インスタンス名を変更して導入している場合は、スタートメニューで「サービス」と入力して起動し、一覧に表示される「SQL Server (XXXX)」の XXXX の部分に置き換えて入力します。「SQL Server (MSSQLSERVER)」と表示されている場合は、「.¥」以降を「.」だけにして入力します。

５．更新プログラムの適用手順

インターネットに接続している場合は(1)、接続していない場合は(2)の手順で適用してください。

(1) インターネットに接続している場合（Windows Update）

① Windows の［設定］→［Windows Update］→［詳細オプション］を開き、「その他の Microsoft 製品の更新プログラムを受け取る」をオンにします。

Windows Server 2016／2019／2022 の場合は、［設定］→［更新とセキュリティ］→［Windows Update］→［詳細オプション］の「Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムを受け取る」をオンにします。





② ［Windows Update］の画面に戻り、［更新プログラムのチェック］をクリックします。
③ SQL Server の更新プログラム（「３．」の表で確認した KB 番号）が表示されたら、インストールします。表示されない場合は、(2)の手順で適用してください。
④ 再起動を求められた場合は、Windows を再起動します。

【注意】手順①の設定がオフの場合、SQL Server の更新プログラムは配信されません。

WSUS（社内のサーバーで Windows Update の配信を管理するしくみ）などで更新プログラムの配信を管理している環境では、更新プログラムが表示されない場合があります。その場合は、システム管理者にご相談いただくか、(2)の手順で適用してください。

(2) インターネットに接続していない場合（更新プログラムを持ち込んで適用）
① インターネットに接続しているパソコンで「Microsoft Update カタログ」（https://www.catalog.update.microsoft.com/）を開き、「３．」の表で確認した KB 番号で検索して、更新プログラムをダウンロードします。
（例）SQL Server 2019（GDR）の場合のファイル名：SQLServer2019-KB5132751-x64.exe（ファイル名の末尾に英数字が付いている場合もあります）
② ダウンロードしたファイルを、USB メモリなどで作業するパソコンにコピーします。
③ コピーしたファイルを右クリックし、［管理者として実行］をクリックします。
④ ライセンス条項に同意し、画面の指示に従って進みます。［機能の選択］画面で対象のインスタンスが選択されていることを確認して［次へ］で進み、最後の画面で［更新］ボタンをクリックします。
⑤ 完了画面が表示されたら［閉じる］ボタンをクリックします。再起動を求められた場合は、Windows を再起動します。

６．適用後の確認

① 「４．ビルド番号の確認手順」をもう一度おこない、番号が「更新済みのビルド番号」以上になっていることを確認します。
② MJS マイナンバーを起動し、正常に動作することを確認します。

７．補足

(1) SQL Server 2016 以前をお使いの場合
今回の更新プログラムは提供されません。SQL Server 2017 以降へのバージョンアップが必要になりますので、担当支社またはカスタマーサービスセンターにご相談ください。

(2) 自動更新を設定している場合
自動更新の設定によっては適用済みの場合もありますが、必ず「４．ビルド番号の確認手順」でビルド番号をご確認ください。

(3) 他のパソコンからサーバーに接続して運用している場合
MJS マイナンバーをネットワーク経由で運用している環境は、他のパソコンから接続できる状態のため、優先して適用をお願いいたします。

(4) ダウンロードしたファイルの確認方法
コマンド プロンプトで「certutil -hashfile ファイル名 SHA256」を実行し、表示された値がマイクロソフト社のページに記載されている SHA256 ハッシュと一致することで、ファイルが正しいことを確認できます。
SQLServer2019-KB5132751-x64.exe の SHA256 ハッシュ：
3E726D71E2528CC2E5F14D0D5308472C458453E990ED79535FA2D8273CEE0AF5

ご不明な点がございましたら、担当支社またはカスタマーサービスセンターにお問い合わせください。

以上